



夏休みの貴重な経験を生かして

校長 淋 慎一郎

45日間に及ぶ長い夏休みも終わり、いよいよ2学期が始まります。「えっ!?もう夏休みも終わり?」それとも「待ちに待った2学期だ!」みなさんの心境はどちらでしょうか? 私は「あっという間の夏休み」でした。今年も「夢の45日間」があっという間に過ぎていってしまいましたが、みなさんの表情を見ると、普段体験できないことをたくさん経験し、しっかりフル充電をして2学期を迎えているのではないのでしょうか。



【関門海峡から九州を望む】



【昨年度川が氾濫し、水没した施設】

さて、今年の夏休みは、7月に酷暑日が5日連続で記録されたり、激しい雷雨・線状降水帯による甚大な被害が出たり、そして郷里熊本では、最大震度7の令和8年熊本地震が起こったりと「自然災害」の激しさを実感した夏でした。特に郷里では、昨年度は豪雨による災害に見舞われており、毎年のように日本のどこかで災害が起こっています。狛江市も1974年の多摩川決壊や2019年の多摩川氾濫と自然災害に見舞われた歴史があります。『備えあれば憂いなし』ということわざもあります。「日頃からしっかりと準備をしていれば、いざという時も心配はない」という意味のことわざです。今年も自然の脅威を感じ、防災についてさらに意識が高まりました。

今回、私は車で郷里の熊本まで帰省してきました。(今回は10日間の帰省で、約3200km走りました。)父方の実家にあるお墓参りをしたり、妻の実家にあるスイカのビニールハウスの解体をしたり、東京では味わうことができない経験をたくさんしてきました。そして帰省すると、たくさんの疑問が出てきて、つい調べてしまいます。過去には「淋の由来」についてふと気になり調べたことがあります。「向淋」という地名があったり、「実は平家方の落人だった?」ということだったり、調べていく中で次々に新しい問いが生まれてきました。このように興味をもって探究的な学びを進めていく中で、「これは何だろう?」「もっと知りたい!もっと調べたい!」という思いを、授業の中でたくさん経験させることが、子ども達の学びをより深く、より持続可能なものへとつなげていくのだと実感することができました。



【向淋渡し跡】

夏休みに普段とは違うことをたくさん経験することで、子ども達の興味や思考が刺激されています。2学期以降も子ども達の意欲を高め、学ぶ楽しさを授業の中でたくさん経験させることで、問いをもって学び続ける子ども達の育成を目指し、教職員一同精進してまいります。今後とも皆様方のご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



狛江市教育委員会

「コミュニティ・スクール通信」

9月の生活目標 ○気持ちのよいあいさつをしよう ○身の回りや生活のリズムを整えよう。

三小の子どもたちは挨拶がとても上手です。毎日気な「おはようございます」や「さようなら」が行き交っています。しかし休み時間に廊下ですれ違った際はどのように。「こんにちは」と挨拶をしたり、相手の目を見て会釈をしたりすると関係がより深まっていきます。今日から新学期、より気持ちの良い挨拶が行き交う三小を全員でつくっていきたいと思います。

長い夏休みで生活リズムが崩れ気味のお子さんもいるかと思います。学校の生活リズムに体を慣らし、学習に集中して取り組める環境を整えられるようご協力をお願いします。

コミュニティスクールとしての取組 三小、六小、二中の3校でコミュニティスクールとして情報共有、連携強化を実施して早3年が経ちました。これまでの3年間毎年3回、全教職員が集まり、各校の情報の共有等を行ってきました。今年度は9月16日(水)に六小と二中の全教職員が三小の授業の様子を見に来ます。地域で子どもたちの教育活動を支える、地域で子どもたちを育てるという視点で、今後も連携強化を図っていきます。